

令和7年度第3回広島城天守の復元等に関する検討会議 議事要旨

1 名称

広島城天守の復元等に関する検討会議

2 開催日時

令和8年3月31日（火）14時30分～15時30分

3 開催場所

広島市役所本庁舎14階第7会議室

4 出席委員等

(1) 委員

三浦正幸委員（座長）、金澤雄記委員、島充委員、鈴木康之委員、
塚本俊明委員、橋本涼太委員、光成準治委員、山田岳晴委員

(2) 事務局

広島市市民局長、文化スポーツ部長、広島城活性化担当課長、文化財担当課長、
清水建設㈱、㈱文化財保存計画協会、㈱計測リサーチコンサルタント、㈱大崎総合研究所 ほか

5 議事（公開）

- ・「広島城天守の復元等に関する技術的課題に係る調査・検討報告書」について

6 傍聴人の人数

3人（報道関係者を除く。）

7 資料名

- ・広島城天守の復元等に関する技術的課題に係る調査・検討報告書
- ・広島城天守の復元等に関する技術的課題に係る調査・検討報告書 資料編

8 各委員の発言の要旨

・「広島城天守の復元等に関する技術的課題に係る調査・検討報告書」について (事務局（広島城活性化担当課長）)

- ・ 令和 5 年 11 月から令和 7 年 10 月まで 7 回に渡り開催した「広島城天守の復元等に関する検討会議」において検討した内容を取りまとめた報告書を作成した。
- ・ なお、本検討会議では、検討内容が多岐にわたるとともに、専門的かつ詳細な検討を行った箇所もあることから、検討概要を分かりやすく記載するため、根拠となるデータやより詳細な検討内容については資料編として別冊に取りまとめている。
- ・ 報告書作成に当たり、あらかじめ委員の皆様から頂いた意見を踏まえ、三浦座長にも確認いただいた上で変更を加えた。変更箇所は以下のとおり。

【変更箇所】

・ オ 設備環境（報告書 P16）

「博物館施設として適切な空気環境等が整っていない。」という記述にしていたが、博物館施設の活用を前提としているため不適切ではないかとの意見があったため、「天守内部を活用する場合にはスペースが狭く、空調等適切な設備環境が整っていない。」という文言に修正した。

・ ウ まちに対する愛着や誇りの醸成への効果（報告書 P20～P21）

【耐震改修】について、「基本的に発掘調査が実施されないため、遺構に関する新たな知見は得られず、」という記述にしていたが、保存活用計画で計画的な発掘調査を行う方針が示されているため、修正すべきとの意見があった。このため、耐震改修による場合、現天守が残ることを考慮し、「基本的に発掘調査が実施されないため、現天守下部の遺構に関する新たな知見は得られず、」と修正した。

・ (4) 整備後の活用（報告書 P21）

【耐震改修】について、「耐震改修すると展示スペースが縮小される。」という記述にしていたが、三の丸歴史館ができることを踏まえると、博物館施設としての活用を前提とするのは適切ではないとの意見があったため、「耐震改修後の内部空間は現在より狭くなる。」と修正した。

・ 復元図（報告書 P33）

復元図について、これが最終的な復元原案ととらえられる可能性があり、注記を付けた方がよいのではないかとの意見があったため、表 8 の下に注記を追記し、検討途中であることを明記した。

- ・(オ) 建築基準法（報告書 P50）、(ク) バリアフリー法関連（報告書 P51）

現存天守でも耐震補強が行われていることから、木造復元においても耐震補強が必要であることや、バリアフリーなどについても対応が必要ということを示すべきではないかとの意見があったので、それぞれ追記を行った。

- ・(7) 発掘調査（報告書 P90）

想定している実施時期を記載してはどうかとの意見があったが、現段階では具体的な実施時期を記載することは難しいため、「できるだけ早く実施する」との文言を追記した。

- ・なお、本報告書は、基礎的な調査・検討の結果をとりまとめたものであり、来年度以降、引き続き蓋然性の更なる考証や、石垣の安定性の検討など、詳細な調査・検討を行っていく。その詳細検討の結果を受けて、最終的な調査検討報告書を作成したいと考えている。

（三浦座長）

- ・報告書及び資料編を踏まえ、今後の詳細検討に向けて意見や質問等があればお願いしたい。

（鈴木委員）

- ・前から言っていることだが、今回のこの報告書は天守の復元に関することについてのものだが、広島城の価値というのは天守だけにあるのではなくて、史跡広島城跡やさらにはその外に広がるかつての広島城下があり、その中で総合的に広島城の価値を考えなければいけないと思う。そういうことを考えた時に、その広島城の価値を訪れた方に理解していただくためにどのような整備や活用の形があるのかというビジョンをまず示して、そこに向かって順番にステップを踏んでいく中で、この木造復元がどのような場所に位置づけられるのかということ、どこかで示した方がいいのではないかなと思う。それに関して、二の丸の表御門周辺一帯が木造で復元されていることについて、それもステップの一つだと思う。その二の丸の復元で何が達成できて、何が達成できていないのか。それを踏まえて、次に天守の木造復元でどこまでそれが達成できるのか、その先にどのような活用方法があるのかを考えていかなければいけないと思う。
- ・今回の報告書は天守の復元に関することなので天守のことだけに集中しているが、そういった全体像が分かりにくい。これまでの整備の成果、以前効果検証をお願いしたと言ったが、これまでの取組でどこまで達成できているのかということも分かりにくいので、その辺りのことを今後どのように示していくのか教えてほしい。

(事務局（文化財担当課長）)

- ・ 史跡全体のことになるため、文化財担当から回答する。史跡広島城跡保存活用会議において、先般、保存活用計画を策定した。その中には、天守の復元等についても検討すると記載している。また、昨年度から史跡広島城跡整備基本計画の改定に取り組んでいる。その中で、天守を含め、史跡全体の整備をどのように進めていくかということについて検討しているところなので、当然、天守の木造復元についても取り込まれるものと考えている。
- ・ 鈴木委員の指摘はもっともな指摘である。史跡全体の中で、市民や来訪者が、どのように城の価値を理解してもらえるかを、整備基本計画の中で考えていきたい。

(鈴木委員)

- ・ まだ議論が十分ではないと私が感じているところについては、保存活用会議の方で議論することになるという理解でよいか。

(事務局（文化財担当課長）)

- ・ 保存活用会議でも議論してもらうことは大変ありがたい。また、天守の詳細については、また別の機会でも議論することもあると考えている。

(三浦座長)

- ・ 史跡広島城跡保存活用会議では、広島城を今後どうするかという全体のことについて議論している。天守の詳細内容についてもそのうちの一部であり、そういう議論は別の会議できちんとして行っているということを、委員の皆様には承知してもらいたいと思う。

(塚本委員)

- ・ 蓋然性の考証に関して非常に細かな内容について議論されたことに対しては、深く敬意を評する。何回か質問したものの、まだ納得できていないのが、この復元図がどういう意味または位置づけなのか、ということだ。木造復元の基準の中で蓋然性を保つということが書かれているが、この検討業務の中での蓋然性の検証の部分で書かれているのは、復元図を書くためにいろいろなパーツ等についてこう決めていく、という風なことだということが最後になってよく分かったのだが、ただそれが、こう決めると書かれているところもあれば、ここは不明であるみたいな、いろいろな書き方がしてある。そういう流れの中で、最終的にどのように図面を書くかという方針がよく分からないまま、突然図面が出てきていることに非常に違和感を持ったので、その点について教えてもらいたい。
- ・ もう一つ、復元時期について、江戸末期あたりの小天守がある段階まで戻るのがいいのではないかという意見があったと思う。これは決定したというには私は理解していないし、そうであればいいなという雰囲気でのこの会議は一応終わっていたと思うが、この復元図は全体として、その江戸末期あたりの時代まで戻るといふ検証がなされた図なのか教えてほしい。江戸時代末期あたりの、可能であ

れば目指したいと我々が思ったものをきちんと表現したものになっているのか、それともそうではないのか。

- ・また、天守と例えば東小天守では、全然レベルの違うものが同じ図面の中に表現されている。これをそのまま外部に出して皆さんに理解してもらえるのか、それともこういう前提だということをきちんと説明した上でこの図面を外部に出した方がいいのか。それがよく分からないままずっとここまで来てしまっている。この点について、わかりやすく説明してもらいたい。

(三浦座長)

- ・復元図及び復元原案について、また、今後実施設計もしていくことになるが、そちらとの関連性も合わせて、事務局から説明をしてもらいたい。

(事務局（広島城活性化担当課長）)

- ・報告書に記載している図面については、江戸末期から明治初期の姿を復元する形で作成した図面ではあるが、注記に書いているとおり、検討途中の段階のものになる。前回の検討会議で、委員の皆様からも意見が出ており、特に小天守については、まだまだ資料が足りてないので、今後詳細検討の中で更なる蓋然性の考証を進めて、検討図面を完成させていきたいと思っている。それを踏まえて、実施設計の中で更に詳細な図面を作り上げて、最終的に文化庁等に申請していくという流れになっていくことになると考えている。
- ・また、この図面の公表については、途中段階のものになるので、その点を留意する必要があると思っている。これは完成形ではないという点を十分留意した上で、「検討過程」という出し方で、この度は報告書という形で公表することとした。

(塚本委員)

- ・報告書として公表するに当たって、報告書の 32 ページから 33 ページの内容だと、今の説明にあった前提条件が一切書かれていないので、考証や古写真の解析など、復元図作成の経過途中でどれだけ大変な考証をしていたか全く書かれていないので、全く意味が分からない内容になっている可能性がある。また、資料編まで全部公表するのであれば、これが全ての人にとって理解できるものになっているか、ということは十分に精査した方がよいと思う。

(三浦座長)

- ・今回資料編に載っている復元図というのは、あくまでも復元図である。これは復元の想定図であり、最終的にどのようなになるかは、復元原案といって、文化庁が決めている用語だが、その復元原案として出されたものが本当に復元する図面となる。したがって今回の報告書にある図面がそのまま建つわけではない。細部等、資料が足りないところが結構あり、資料が無いところについても類例等を参考に今後の詳細検討の中で詰めていくことになるので、それによって少しずつは変わることとなる。ただ、大まかな形は変わらないだろう。広島城の天守群がどのよ

うなものであったのかということについては、この復元図で十分である。わずかに窓の位置が若干ずれているとか瓦の本数が違うとか、そういう細かいところまでは最終的にはまだ決まっていない。最終段階の図面を待っていたら、広島城は一体何がどうなっていて、どんなものができるのかということをご一般の方々にお知らせできないので、暫定的にこのようなものであると公表したということだ。

- ・大天守と一部の廊下については、文化庁の基準における復元というものに相当するので実施される可能性が極めて高いと思うが、南小天守及び東小天守については、今後更に文化庁との折衝が必要かと思うので、これで決定というわけではない。しかしながら、広島城が最も輝いていた時はこのようなものであったということをご一般の方々にまず理解してもらうために重要な役割を果たすのではないかと考えている。このとおり建つわけではないが、大体このようなものを目指しているのであると、文化庁からはまだ許可が出ていないので分からないが、なるべくこの形にしたいと、そういう風にこの図面を理解してもらいたい。

(塚本委員)

- ・広島城（広島市文化財団）の主催で、島委員が講演された広島城アカデミック講座について、私も聞きに行った。その中で広島工業大学の光井周平准教授が、「構造的にバランスをとってみると、最初の段階からアンバランスなものがあり、例えば地震で揺れた時に弱い部分があるのではないかと。決めきったわけではなく、そういう傾向もあるのではないかと。よって、補強されている部分については、構造的に少し弱い箇所が江戸時代末期以降、補強されて今に至っているのではないかと」ということを言われていた。言われてみれば、確かにそのように見えると思った。ここから質問なのだが、それを江戸末期の状態に復元した時に、構造的に弱い部分についても姿を戻すのか。また、そうであれば、どのような形で復元するのか。この復元図面の中では何も語られていないが、もし方針などがあれば教えてください、それはもっと後で決めるという話であれば、それでもいい。

(三浦座長)

- ・もっと後になると思うが、事務局に説明してもらいたい。

(事務局（広島城活性化担当課長）)

- ・復元原案によって当時の様子を復元した上で、建築基準法上、耐震性など、基準を満たしてないところについては、構造上の安定性を持たせるために補強をしていくという流れで検討していく予定である。

(三浦座長)

- ・かなり前は、元の通りに戻すことを主力にしていたので、耐震性については蔑ろになっていたが、ここ最近は、耐震性は絶対確保しなければならないと考えられている。復元原案というのは、復元するようになっていたという原案であって、それをそのままの形で復元した結果、例えば震度 7 の地震に対して耐えきれない

ところがあると困るので、今後は復元原案についてコンピューターでシミュレーション、場合によっては模型を作って実験をするなど、そういうことを重ねて適切な補強を加えることを検討していくことになるだろう。その適切な補強は、なるべく見えないところに、近代的補強なので、大抵のところでは鉄骨等を見えがくれに加えて、震度7の地震に耐えられるようにすることになると思う。

- ・また、原爆で倒壊する前に作られた実測図面では、建物の中にたくさんの支柱が入っていたが、あれは脆弱なところに支柱を入れたのではなくて、もともと使われていた建材がヒノキではなく、松と杉、多分松が多かったと思うが、そのために腐朽がかなり進んでいて、この天守自体の劣化による強度不足を補うためにいっぱい入っていた。そのため、復元を行う際には、後で加えられた支柱は基本的に必要ない。後で加えられた支柱と、元々あった柱は、図面と写真できちんと区別がつく。強度が不足したから入れたのではなくて、築300年くらいでひどく劣化をしてしまったための応急処置として入れたものであるため、今回の復元図では除去してある。今後、復元原案が作成され、それについて耐震診断等を行い、適切な補強等が加えられることとなる。元々の姿をなるべく維持しながら、十分な安全性を保つことができる補強が近代的な方策として行われるものだと思う。

(塚本委員)

- ・そういう前提だということをきちんと明記してもらえるとよいと思う。

(三浦座長)

- ・この報告書は、復元を実施するための報告書ではなく、第1段階のものなので、そういった説明は書いていない。そのような補強をすることは当たり前だと思って書いていないわけだが、基本的には絶対的にされることなので、今後詳細検討が進んで、また次の報告書が作られるときには、なるべくそういったことも明記してもらいたいと思う。

(島委員)

- ・報告書の作成に当たっては苦勞されたと思う。心から敬意を表したい。こういう動き出しというのがやはり大きなことだと思っている。この報告書ができたことで、今は混然一体となっているようなイメージだが、課題が結構抽出されたと思う。この報告書は結果ではなくて、叩き台になっていくということで受け止めている。今後のことについて、塚本委員の話を聞いても感じたことだが、方針を明確にしてもらいたいと思う。補強の入れ方についても、昔のとおり補強が入った状態にするというような考え方もあれば、補強がない状態にするために、どういう風に近代的な方法でやるかという考え方もあるし、もし現代まで残っていたら、現代においてどういう補強を加えたかという考え方で補強を行うとか、いろいろな方針がある。

- ・復元図の作成に関しても、いつやるのか、いつの時代に戻すのかという方針を明確にしてもらいたい。これからのことについて望むのは、オリジナルに向き合ってもらいたいということである。復元というのはオリジナルに戻すということなので、そのオリジナルが伝わっている資料に向き合うということであり、それが、文化庁の方針でもあるように、根拠があるということになる。つまり誰がやってもその形になるというような形を目指していく。人が違うとこういう意見もあって、という段階ではまだ蓋然性が高いとは言えなくて、今残っている資料をとにかく読み解いたら、どの人がやっても同じ形になるというような資料との向き合い方、すなわちオリジナルを大切にすることを基本に置いてもらいたいということを感じている。質問ではなくて感想になるが、これからの歩み出しに期待を持って見ている1人なので、よろしくお願いします。

(三浦座長)

- ・今、島委員が言われたようなことを今後詳しく検討していくことになるので、事務局にはよろしくお願いします。
- ・資料というのは、ただあればよいというものではなくて、その資料から読み解けるものが何であるかということをきちんと分析しなくてはならない。資料を見れば、誰がやっても同じものができるわけではなく、大勢の研究者もしくは関係者がその資料を分析して議論し合って、その結果、絶対的にこれが正しいんだということで、最終案を作ることになる。したがって、大勢の方の知恵を集めることが大事になる。例えば今回、すでに見つかっていた古写真や図面等について、古写真の不鮮明に映っている箇所から、東の廊下の2階のところに島委員が小さな窓を発見した。誰も気がついていなかったが、島委員の意見によって、その写真を引き伸ばしたりする等いろいろな努力した結果、ちゃんと窓があるということが確認できた。他にもあるのではないかとということも詳細に検討して、他はないということも確認できた。そのように、誰が見ても同じものではなくて、多くの人の知恵を集めて最善のものを作るのが本来の目的である。今後も島委員にはしっかりと尽力をお願いしたいと思うので、よろしくお願いします。

(島委員)

- ・確かに、古写真の読み解きは難しい。同じ古写真でも人によって見え方が違うということもあるが、根拠の読み解きというのは三浦座長が言うように、いろんな視点から意見を出し合って議論をし、その上で納得をしていくということが大事だと思っている。

(光成委員)

- ・詳細な検討を今後行うということについて、その詳細な検討をどのくらいの期間をかけて行う予定なのかということと、前回もお話したとおり発掘調査は必ず必要なのでお願いしたいのだが、詳細な検討と並行して発掘調査を行うのか、それ

とも詳細な検討が終わってから発掘調査を行うのか、予定あるいは言える範囲で構わないので、教えてほしい。

(事務局（広島城活性化担当課長）)

- ・詳細検討については、他城郭の事例や事業者の聞き取り等によると最短でも 5 年程度はかかるものと考えている。

(事務局（文化財担当課長）)

- ・光成委員が言われるように、詳細検討には発掘調査は不可欠であると事務局も考えている。現在、史跡広島城跡整備基本計画の改定に向けた発掘調査を行っているので、発掘調査の全体計画の中で、詳細検討のスケジュールを見ながら必要な調査を行っていききたい。

(三浦座長)

- ・補足をする、と、天守台の周りの発掘は既に行われており、市民に対する公表や現地見学会も行われている。その点について説明をお願いしたい。

(事務局（文化財担当課長）)

- ・令和 6 年度から、広島城跡の本丸上段部、特に天守台周りについて発掘調査を実施している。天守台の基礎部がどのような構造になっているのか等を、史跡広島城跡保存活用会議やその分科会である石垣部会の委員の指導を受けながら調査を進めている。また、市民の方々にも見てもらうため、令和 7 年 12 月に現地見学会を実施し、400 名以上の方々が来場し、報道にも盛んに取り上げられた。発掘調査は、天守の復元に関する検討にも資するものなので、優先順位をつけながら進めていきたい。

(三浦座長)

- ・大小天守そのものの地下については、まだ発掘調査は行われていないが、今後、南小天守及び東小天守、それと南と東の渡り櫓の部分についての遺構面の発掘調査は必ず実施されると思う。

(金澤委員)

- ・これだけの立派な報告書ができて、敬意を表したいと思う。1 点、この報告書を市民の方々や、関心のある方に今後どう PR やアウトプットしていく予定かということを知りたい。報告書を読むのは専門的な知識がないと難しいと思う。今回、広島城の開城で、この 2 ヶ月盛り上がったと思うが、今後、市民の方にどのように PR していく予定なのかということを知りたい。

(事務局（広島城活性化担当課長）)

- ・広島城天守の復元等に関する検討状況を市のホームページで公表しているので、この報告書もそこに掲載して、皆様に見てもらおうと考えている。また、広島城天守は閉館したが、今後、木造復元に向けた機運醸成ということで、AR 等の技術を使いながら当時の姿を見ていただくという施策をやっていききたいと考えてい

る。

(金澤委員)

- ・もっといろいろな機会があるとよい。

(三浦座長)

- ・去年から今年にかけて、2 回ほど市民団体に対して広島城の講演を行った。その時に、参加者が誰も広島城の天守の本来の姿を知らなかった。市のホームページで公表すれば皆さん見てくれると思うかもしれないが、基本的にほとんどの人は見ない。広島城がいかに素晴らしいかということを、広島市民、広島県民または日本国民にしっかり理解してもらいたい。広島城には大小 3 つの天守があったということは、広島城の本質的価値の理解の上で非常に効果がある。広島城の価値を世間にしっかりと示すために大事なので、金澤委員が言うように、もう少し頑張ってしっかりアピールしてもらいたいと思う。広島城の大小天守を、もし 3 つとも再建できた場合は、姫路城を越えて日本一の壮観さになることはまず間違いない。そのようなすごいものであるということを広島市民は全然知らないので、ぜひともホームページなどという控えめな、消極的なものではなくて、もっと能動的にしっかりと PR してもらいたい。それだけの価値があるので、なんとか努力してもらいたいと思う。

(事務局（広島城活性化担当課長）)

- ・ご意見をしっかりと受け止めて、市民の機運醸成を図るために木造復元について市民の皆様知ってもらえる機会をしっかりと持っていこうと思っている。広島城三の丸歴史館において、島委員の監修のもと大小天守の模型を作ることにしている。その模型も見てもらいながら、壮大な天守群を感じていただくことで、広島城の魅力を認知してもらえように取り組んでいきたい。

(三浦座長)

- ・水を差して申し訳ないが、いろいろなところで市民の意見を聞くと、小学校の時に行ったけれど、それから一度も行ったことないという広島市民がほとんどである。三の丸歴史館に島委員の素敵な模型を置いても、どれくらいの市民が見てくれるかどうか非常に怪しいところである。それだけではなくて、もっといろいろなイベントで、例えば、5 月のフラワーフェスティバルなどで、大いにアピールしてもらいたいと思う。広島市は今まで宝の持ち腐れで、このような素晴らしい広島城を市民の方々にアピールしてこなかったのが、これからはしっかりアピールをお願いしたいと思う。

(事務局（文化スポーツ部長）)

- ・私も生まれてからずっと広島で暮らしているが、まさに天守がどのような状態だったかというのは認識できていなかったため、非常に勉強になったと思っている。委員の言うとおりの、いろいろな機会知ってもらうということが必要であると思

っている。課長が説明した以上に今後の取組を考えていきたいと思う。またいろいろアドバイスをもらいたいと思うのでよろしく願いしたい。

(三浦座長)

- ・期待しているので、よろしく願いしたい。

(島委員)

- ・閉城するまではたくさんの方に注目され、人が溢れていたが、今、広島城は閉城している。今後は外観がそのまま残るわけだが、例えば名古屋城では、中には人が入れなくなったけれども、最上階の窓を戦前の形の姿に戻すというような工夫がされてる。外観を活用していくということが今後重要になってくると思うので、ぜひ最上階の鉄柵を撤去し、元の姿に戻してもらい、そして例えば、火灯窓の外に掛け戸を作って古写真の状態にしてみるとか、とにかく外観を使っているいろいろな発信をしてもらいたい。姫路城も大阪城も、お城のイメージというのが溢れているが、それが広島城には足りないと思う。例えばポスターや商品のパッケージのようなものに使ったりだとかして、広島城のイメージを広く溢れさせてもらいたい。

(山田委員)

- ・今回、すばらしい報告書ができて良かったと思う。先ほど言われたように、広島城は地域的にも市内や県内の中でも割とアピールが控えめだと思う。私がよく行き来している福井では、江戸城や名古屋城、大阪城や姫路城は有名であり結構話題になっているが、広島城は話題になったことがない。市民や県民の皆さんで機運を高めるというのは一番大事だと思うが、意外に日本人というのは「広島城はすごいことになっているね」と外から言われると、「え、そうなの？」と気分が高揚してきて機運が高まるところがあると思う。国外も含めて、広島にはこんなすごい城がある、これが復元される可能性が高くなってきたということをアピールしてもらえると、相乗効果で機運が高まっていくと思う。広島という地域に限って機運醸成の取組を行うのではなく、外にもアピールしてもらい、外から周って地域の機運を高めてもらうような相乗効果がある取組も検討してもらいたい。

(三浦座長)

- ・広島城の大小天守のすごさというのを、ほとんどの方が知らなかった。今回の報告書で、初めてまっとうな復元図が作られた。大天守だけで比べてみると姫路城の方が少し大きい、小天守は姫路城よりも広島城の方が大きい。姫路城は小天守が3つあるが、広島城は姫路城より大きな小天守が2つある。大天守と小天守の間に長い廊下がついており、真ん中の大天守を斜めから見た時に、東小天守と南小天守が両手を広げて、自分の方を囲んでいるように見える。その景観は、想像してみると姫路城を軽く超えると思う。だから、今、姫路城は大小4つの天守でできている日本史上最大の天守群だと言われているが、もし広島城の3つの大

小天守の木造復元が実行された場合は、日本一の天守群の姿を目の当たりにすることができる。日本一ということは世界一なので、したがって、広島城はそのようなものであるということを、ぜひとも日本全国に、場合によっては世界中に広めてもらいたいと思っているので、よろしく頼む。

- ・今回、報告書ができたが、これは日本が誇る広島城の天守群、規模や姿、歴史的なことを考えても日本一の天守群の復元をするための第一歩である。これから詳細検討を引き続き行うことによって、より正確な復元原案を作成し、最終的に実施設計まで持っていくということになる。まだまだ始まったばかりで長い工程があると思うが、皆様にはよろしく願います。
- ・意見が出揃ったようなので、今日の議論は以上とする。

(事務局（市民局長）)

- ・この広島城天守の復元等に関する検討会議は、令和5年11月から始まり、計8回、約3年と長期に渡って委員の皆様にご議論をいただき、指導をいただいた。皆様のご協力に感謝申し上げます。
- ・現在の3代目広島城天守は、今年3月22日に閉館した。今年度は約70万人の方々に訪れていただき、広島城に対する関心の高さというものを改めて実感した。こうした関心の高まりを逃すことなく、今後も持続していくために、市民の機運醸成をしっかりと図り、木造復元の実現可能性を高めていく取組を着実に進めていきたいと考えている。
- ・本日で、一旦、基礎的な調査・検討は区切りを迎えたが、来年度以降、この検討結果に基づき、また文化庁とも丁寧に議論を重ねながら、より詳細な調査・検討を進めていく。
- ・今後も、有識者の皆様からの意見をいただく会議の開催を予定しているので、引き続き、ご協力いただきたい。